

「学習課題」と「まとめ」がある授業の3つの類型 ～課題の質も高めてさらに一步前進～

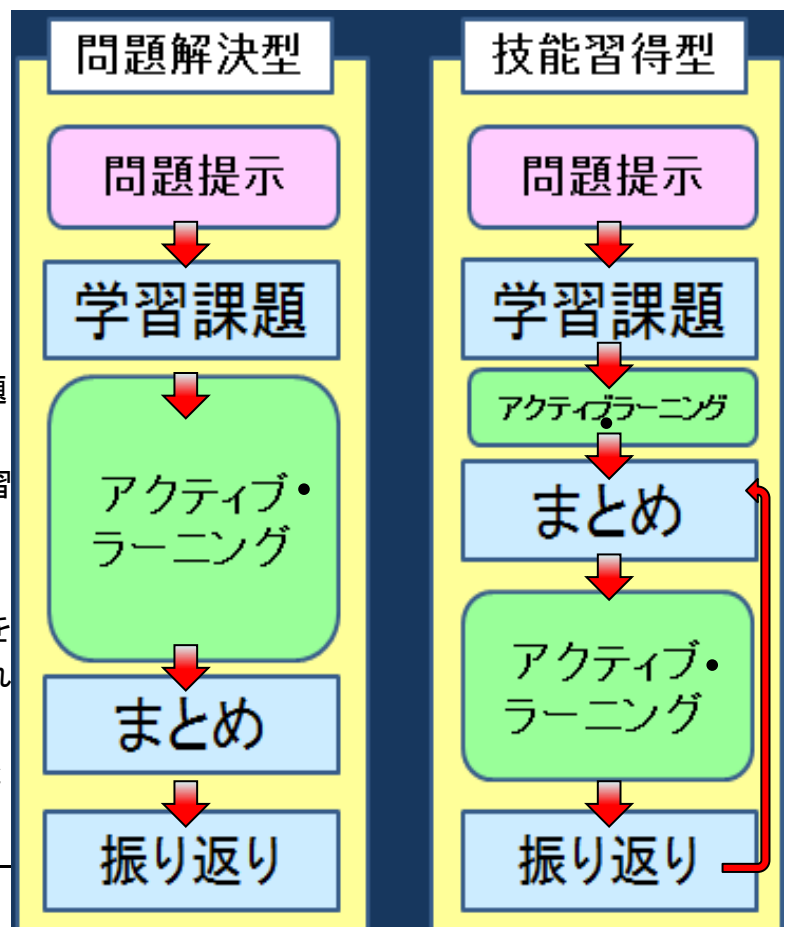
4月23, 24日と2日間にわたり、各校の研究主任の皆さんからお集まりいただき授業改善・改革戦略フォーラムを開催しました。

全体会では、右図にあるように「学習課題」と「まとめ」がある授業の類型について、説明がありました。

これまで説明してきました学習課題とそれに正対したまとめのある「問題解決型」授業に加え、技能の習得を要する教科や活動についての、「技能習得型」授業が示されました。

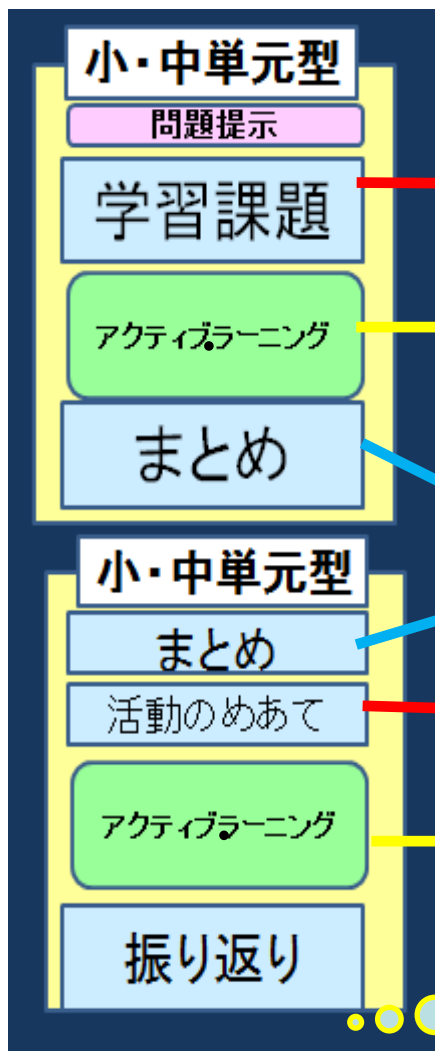
これは、体育や音楽のような技能を習得する場面が多い教科に想定される授業の基本型です。

右の図のように学習課題設定の後に、仮のまとめを行い、そこで把握した知識や技能を基に、アクティブ・ラーニングを行います。授業終盤では、実感を伴った振り返りやまとめが促されることになります。



また、国語や社会科などの教科によっては、2, 3時間の小・中単元の中で「学習課題」と「まとめ」を配置する「小・中単元型」授業も考えられることとお話しました。

本時に単元を貫くような学習課題を設定してまとめを行い、次時で活動のめあてを示した後に追求を促して、最後に実感を伴った振り返りを行う方法を「小・中単元型」のフレームとして示しました。裏面に国語の例示で詳しく載せてありますので、ご覧ください。



国語「立場を明確にして書こう」

自分の考えが伝わる意見文にするにはどうすればよいだろうか？

複数の文を読み比べ、ポイントを話し合う

- 次の3つの観点を入れるとよい
- ① テーマに賛成か反対か書く
 - ② 自分の意見には必ず理由を入れる
 - ③ 「例えば」などと、具体例を入れる

見つけた観点を取り入れて、立場の明確な意見文を書こう

意見文を書く

読み合い、アドバイスし合う

自分の考えが伝わることは分かった。しかし、自分の意見を裏付ける具体例を示すことは難しいと感じた。次の時間までに見直してみたい。

グループ協議では、各学校から今年度の研修計画における授業改善に向けた具体的な取組を紹介し合いながら、「組織的な取組による授業力の向上」や「日々の授業改善・改革を促すシステム」についての具体的な取組や進めていく上での問題点などについて、話し合いをしました。

研究主任の皆さんからは、自校の実践や様々な視点からの考えを数多くお話しいただき、有意義な情報交換の場となりました。

下記にあるようなことが、多くのグループで話し合われていました。今後、各校におかれましては、全校体制で何を共通に取り組むのか、現行の組織や体制で取り組めるのかなどについて確認する際に、参考にしていきたいと思えます。

□年1, 2回の研究授業だけでは、本当の意味での授業力は向上しない。日々の授業改善を進めるシステム作りが大切だと感じた。

□「学習課題」と「まとめ」を行う授業は、行われるようになってきた。しかし、学習課題の質がまだ十分でない。学ぶべき内容にふさわしいか(内容性)、学級全体の意識が向く問いか(集団性)、子どもの情意が高まる問いか(情意性)の3つの視点から検討してみたい。